

わたしたちの図書館トーク ～語ろう・つくろう・つながろう。図書館と協働の一步～ 要点録

1.これまでの経緯について(図書館長 渡邊)

投影資料:「わたしたちの図書館トーク 投影資料」参照

詳細については図書館 HP 掲載の報告を参照

- ・わたしたちの図書館トークは、今まで行ってきたイベント企画募集から実施までの流れを振り返り、これからの市民協働についてみなさんと語り合うイベント。
図書館デザイン会議からはじまった市民協働の流れと一緒に振り返りながら、これからの市民協働の在り方を講師の岡本さんと一緒に話し合う。
- ・これまで、令和6年2～3月に「図書館デザイン会議」を実施。その後企画募集を行い、22件の企画が集まった。「イベント企画決定会議」にて実施する企画を10件決定し、10件中8件の企画を実施。
- ・令和6年9月と令和7年2月に振り返り会議を実施し、今後の流れについて決定した。
- ・各会議の報告については図書館 HP に掲載している。

2. KPT 法の説明(講師 岡本氏)

- ・初年度の評価として、開館直後にこれだけの活動ができたのは十分な成果であると考え
る。新しい図書館の活動が定着するには約5年かかるため、焦らず継続することが重要。
- ・KPT 法とは: 振り返りを行うためのフレームワーク。以下の3つの要素に分けて行う。
Keep (継続): 良かった点、継続すべき行動、成果
Problem (問題): 改善すべき点、課題、問題点
Try (挑戦): 問題解決や改善のための具体的な行動、試行
- ・記録のために、基本的にマイクを持った人が話すルールとする。

【質問】

参加者 図書館の活動室について利用規約があり、縛りも大きい。新しいことに挑戦したいという気持ちもあるが、規約違反である提案でも良いのか?

館長 まずはみなさんがやりたいことを伺ったうえで、出来る手段を考えていきたい。しかし、図書館利用者との共存も必要なため、ある程度ルールを設けさせていた
だいている。

岡本氏 活動室の利用方法について考えるイベントを作るのも一つの方法だと思う。その
イベントでルールを検討し、ルールを変更して出てくる意見は、ルールを決めた

イベントの参加者が責任を取るということで図書館に検討してもらうなどでもできるのでは。また、今後の運用検討のために、一時的にルール変更を行うなども良い考えだと思う。

3. KPT 法による話し合い（参加者）

投影資料：岡本氏投影資料「多摩市 KPT 記入用」参照

参加者 決定会議などを経ず、有志を集めて図書館講座の企画・運営会議などを行いたい。5人以上の集団であれば図書館で団体登録をすることができ、活動室などを利用できる。まずは有志を5人以上集めて話し合いの場を設け、そこで出た企画を図書館へ挙げていくようにしたい。

参加者 中学校のときに図書館友の会の方から勉強を教えてもらっていたことがあった。大人になり、自分の住んでいる近くの東寺方図書館で同じようなことをやりたいと思い図書館へ相談したが、まだその仕組みがないということでできなかった。その後デザイン会議が開催され、市民から提案される企画の仕組みを考える場だということで参加して、実際に宿題お助け隊のイベントを行うことが出来た。ただ継続的にやるにはまだ仕組みが整っておらずハードルが高い。（現在のルールでは、継続イベントだとしても企画募集・決定会議を経ないと実現不可。）おはなし会は決定会議などを経なくても定期的に行っているの、そういった仕組み作りをしてほしい。またそういった仕組み作りを振り返り会議など市民が集まって行うのではなく、図書館で仕組み作りをしてほしい。

参加者 おはなし会はイベントではないと思う。やっているボランティアが「やりたいこと」ではなく、子どもたちのためにやっているの、で、「やりたいことを実現するためのイベント」ではないと思っている。

岡本氏 私なりの解釈では、おはなし会は図書館としての基本的なサービスだと思う。しかしながら、図書館だけでは出来ない部分もあるため、市民と行政サービスが連携して一緒にやっているという認識。「自分たちがやりたいこと」と比較してどちらがより良いという順番を付けるものではないが、自分たちがやりたいこと、図書館がやるべきものの違いなのかもしれない。宿題イベントの件について、図書館のレファレンスの原則として、宿題の答えは教えないという決まりがある。ただ提案者が行きたいことは学習支援に近く、学習支援は今後図書館の本来的な役割になっていくのではないかと思う。大学図書館では当たり前の業務である。

参加者 今後、社会的な課題に踏み込むような講座をしたいと考えている。図書館主催の

事業を見ると課題解決に関する事業が少ないと感じている。以前、社会課題解決企画として、学生が経済的に余裕のない子どもたちに向けて行っている塾などを図書館で行ってほしいと提案したが、報酬を得ているという理由で叶わなかった。NP0 や多摩市内の団体もあり、現在は社協や公民館で実施しているようだが、図書館でやることにも意味があると思うので、今後実現できれば良いと思う。

岡本氏 東京都内でも、図書館と連携した学習支援の例がいくつかある。
これからへの「Try」として、社会課題にもっと踏み込んでいけたらいいのではないか。図書館の考え方としては「課題解決」というものがあるので、上手くかけ合わせられるといい。

参加者 前回天文学とフラダンスをかけたイベントを行った。最初にそのようなイベントを考えていると相談を受けた時は、かけ合わせられるか不安もあったが、図書館で様々な資料を調べていく中で、天文学とフラダンスの共通点が様々見つかり面白い体験だった。そういった常識を打ち破るような企画も提案できるようになれば良いと思う。

岡本氏 いろんな企画を「混ぜる」ということも今後挑戦してみるといいのでは。昨年実施したイベント同士を混ぜる、今年やりたい企画を昨年のイベントと混ぜる、これとこれはかけ合わせられるのでは？などの観点も大事。
また、企画を混ぜることのメリットとして、参加者を増やすことが出来るという点がある。昨年5人集まったイベントに、新しいイベントをかけ合わせると、最低でも5人の参加者は確保されていると考えることが出来る。多くの人が集まるということは大事。「×（かける）」メリットは多い。

参加者 人を集めるという部分で、現在は情報を取りに来ないと図書館で何をやっているのかわからない状態であると思う。素敵なイベントでも必要な方へ情報が伝わっていない。図書館の中だけでなく、外に出て周知することも必要なのではないか。現在多摩センター地区の活性化活動として駅前のイベントなどを行っているので、その中に図書館がブースを出すなど外に出ることでより広報できる部分があると思う。知らない人が情報をキャッチできるように、地域活動を使ってもらいたい。

学習支援については、大学サークルで学習支援をしているグループがある。活動場所を探しているサークルもあるので、図書館で行えると良いと思う。

岡本氏 活動場所をまずは公園などにも広げていくのが良いと思う。可動式本棚を外に持っていくなどできることはありそう。まずは公園へ、次に駅前広場へと、図書館の外を利用することも必要。

参加者 2階は公園の一部だと思っている。図書館の中も自由に広場として使ってもらい

たいと思う。(補足：中央図書館設計関係者より)

参加者 昨年度の市民協働の仕組みを踏襲し続けるのは良くないと思う。昨年度は参加者が多かったが、今後もこのやり方だと社会課題を解決するような企画は実現しにくいと思う。その場で考えてジャストアイデア的に実施するのではなく、時間をかけながら地域の課題を解決していくようなテーマを作りこんでいくことも必要だと思う。

また、昨年度企画応募したが実現できなかった団体は、自分たちだけで企画実施にチャレンジしている団体もあると思う。その場合会場取りから全て自分たちで行わなければならない、ハードルが高い現状がある。図書館共催の事業だけでなく、自主的な活動もっと応援していく必要があると思う。自分たちだけで企画を実現することが難しいことも問題。

参加者 多摩市で地域協創に関する補助金が出ているので、そういったことも活用できるのでは？(参考：ツナたま補助金(地域協創市民活動事業補助金))

今後やりたいこととして、認知症本人の方や ALS の方を呼んだ講演会などができないか考えている。講師料を払えるように補助金の活用も検討していきたい。

岡本氏 補助金の活用について、いずれは自立することが必要だが、スタート段階での活用は良いと思う。補助金申請のための書類作りは大変だが、書類を作ることで自分たちのやりたいことが固まる場合もある。ツナたま補助金についてはめ切が近いので難しいが、今後、補助金をどう活用するか・どうしたら効果的に補助金を使えるのか・以前の補助金を得た提案書はどうだったのか、といったイベントを図書館で行うことも良い。まさに図書館で取り組んでいる「ビジネス支援」の一環であると思う。

岡本氏 「Try」や「Problem」については意見が挙がっているが「Keep」はどうか。単発企画だけではなく、定例イベントはどうするかというのは、1年間続けた中で出てきた課題でもあるので、続けていくということも重要。継続していくことで見えてくることがある。そのため、1年間やってきて良かったことも挙げていただきたい。

参加者 若手職員との語らいが有意義だった。

図書館 図書館職員としても、実際に市民の方と話し合う場が出来て有意義な時間だった。

岡本氏 今後続けていく中で、図書館職員だけでなく学校関係者や税金関係の職員などに広げていくと良いのでは。これが今後多摩市の人気コンテンツになり、さらにこれを聞いた大学生たちが今後多摩市に就職するなどの流れができるととても良いと思う。

参加者 協力者として朗読会と和綴じ本作成に参加し、「プロ」の技に触れることができて良かった。そういったイベントが今後もあれば良いと思う。

参加者 昨年ラーニングコモンズをイベント会場として利用したのは1団体だった。活動室を利用した講座は多いが、ラーニングコモンズは自習席のように利用されており、活動場所として使われることが少ない。今後企画を募集していく際、ラーニングコモンズやステッププラザ、サテライトカウンターなど新しい活動場所に絞って募集することも良いと思う。活動室は公民館的に利用していることが多い印象で高齢者が多く、ラーニングコモンズとの断層を感じる。それが混ざり合うような企画があればいいと思う。

岡本氏 ラーニングコモンズが日本に普及して20年くらい。20年前に大学生だった40代はラーニングコモンズがあることが主流になっている。また、企画者にとっても、開かれた場所でイベントを行うことで、歩いている人を立ち止まらせて聞いてもらうという気持ちが芽生え、より良いイベントになることもある。開いた場所を積極的に使っていくという事が必要。

【まとめ】

○Keep

- ・若手職員との語らいが良かった
- ・協力者の立場での参加も重要。

○Problem

- ・みんなで決めると、楽しいイベントだけが多くなってしまうことは否めない。今年度社会課題解決のイベントを実施することに加えて、課題を考え、その解決策を中長期的に検討するような仕組みをどう作っていくか検討することも必要。

○Try

- ・課題解決という考えで広く考えていくことも必要。
- ・この場に閉じないで考えよう。まずは公園から。そして駅前へ。中央図書館付近の地域が幸せになるだけでなく、多摩市全体が幸せになるような考え方が必要。重点地区を作るなども良い方法。
- ・補助金関係は是非活用していくと良いと思う。市民活動で課題になるのは経費。スタートのお金を補助金で得つつ、次年度以降はどう資金を得ていくのかという検討が必要。持続可能にするには稼げるようにすることが大事。図書館ではビジネス支援というサービスがあるので、上手く融合できれば。

4. 今後の流れについて

- ・ 図書館としては、今後も市民協働イベントは継続したいと考えている。
- ・ 様々な方がイベントを実現できるよう、昨年度と継続したルールで運用を始める。
- ・ イベント実施と準備期間が被らないよう、年 8 件のイベントを開催予定としている。
- ・ 企画募集後、約 1 ヶ月広報期間を設け、決定会議までに確認を取れるようにする。
- ・ 企画募集、企画決定の流れを半年に一度開催予定

次回は令和 7 年 7 月に、令和 7 年 12 月～令和 8 年 3 月開催のイベントを募集し、令和 7 年 9 月に企画決定会議を行う予定である。（詳細は 6 月中旬 UP の図書館 HP を確認。）

- ・ この方法がベストだと思っているわけではないので、今後も年に一度の振り返り会議を実施しながら、今後のルールを柔軟に検討していきたい。

▲訂正事項▲

「わたしたちの図書館トーク」で配布した「募集要項」に一部誤りがありました。
今後図書館ホームページに掲載する募集要項は、修正した正しい要項を掲載いたします。

P2 4 イベント募集から実施・報告までの流れ

誤：(1)企画書提出

提案者は、第1号様式(企画書)に必要事項を記載し、図書館が指定した日までに多摩市の図書館にメールもしくは紙で提出する。

正：(1)企画書提出

提案者は、第1号様式(企画書)に必要事項を記載し、図書館が指定した日までに多摩市の図書館に図書館ホームページの専用フォームもしくは紙で提出する。